

# マイスターだより

川西町立小松小学校  
 令和8年6月16日(火) No.11  
 文責：情野 夏美

## 授業の定着は練習問題ではなく、問題作り？

加固先生のご指導や本の中で、練習問題で定着を見るのではなく、問題作りをさせていると教えていただきました。そのお話を聞き、早速、5、6年算数で実践してみました。ずっと練習問題で定着をはかったり、見たりしてきたので、不安はありましたが、子どもたちの反応も良く、かなりいい感じでした！見様見真似でも結構ですので、ぜひ挑戦してみてください！

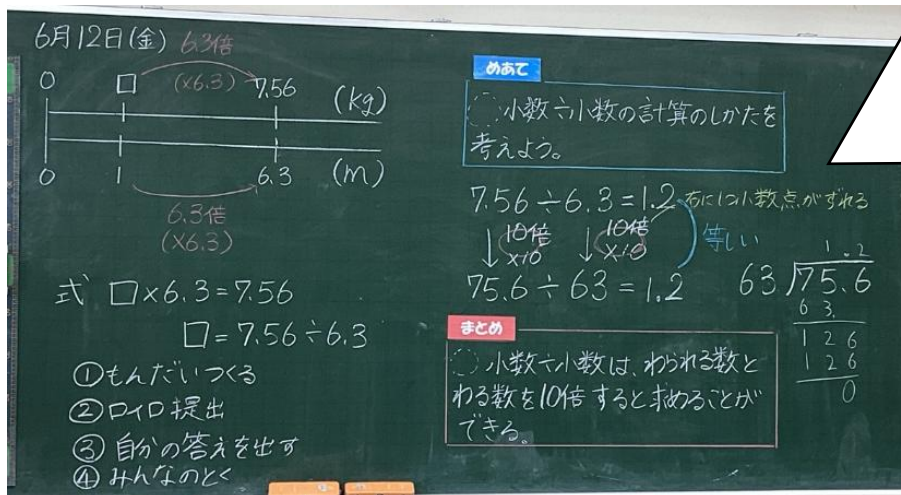
### ～情野の実践～

- ただ「問題を作りましょう。」というのではなく、3つの視点（加固先生の本より）
  - ①数や桁を変える ②数の個数を変える ③場面を変える で問題を考えさせるとよいです。ただ適当に数字を変えるのではなく、既習事項を生かして解けるような問題にするために、よく考えて問題を作り始めます。子どもたちの目の輝き、取り組む姿勢が一気に変わったように感じます。
- 自分で作った問題をロイロで写真に撮り、提出箱に送って、みんなで共有すると、友達の作った問題を見て、解くことができます。決まっている練習問題よりも、友達が作った問題を解く方が、児童のやる気が高まりました。
- 問題を提出した児童は、ロイロの提出箱を見て自由に友達の問題を解きます。解き終わったら、その問題を作った友達に丸を付けてもらいます。丸付けを本人がすることによって、既習事項を理解している必要があり、自分で作った問題を一度解いて答えを出すことで、問題の意味を理解していることにつながります。
- 加固先生のお話や本からは、最初からうまく問題を作ることができる児童はいないとおっしゃっていました。何度も取り組むうちに、既習事項をいかした問題を作ることができるようになるそうです。私も何度も実践してみようと思っています。

～チャレンジ～  
 これまで習ったことをいかして問題を作ってみよう！

- A 数やけたを変える  
 $(23 \times 12 \rightarrow 15 \times 21, 9 + 4 \rightarrow 90 + 40)$
- B 数の個数を変える  
 $(a + b \rightarrow a + b + c)$
- C 場面を変える  
 (たし算  $\rightarrow$  ひき算、あめ  $\rightarrow$  車)

### ～5年1組の様子～



答えを求める際に、既習事項の「わられる数とわる数をそれぞれ10倍すると答えは等しくなるというわり算の性質を使うこと」「答えがわり切れるようにすること」などを踏まえて、子どもたちは試行錯誤しながら問題を作っていました。既習をいかすことは重要なポイントだと感じました。